

## 特徴ある地方国公立大学について調べてみよう

磐南生である以上、旧帝大をはじめとした難関大を目指すというのが、ひとつのモデルケースですが、すべての磐南生がそうだというわけではありません。やはり次の一手も考えなければなりません。そのためにはいろいろな大学について、調べ、考える必要があります。その選択肢の1つとして、地方国公立大学がありますが、なかなかイメージがわからないかもしれません。

静岡大学のような、県(あるいは地域)の名前がついている地方国立大学は、たまに「駅弁大学」と揶揄されたりもしていますが、やはり各都道府県の学問の中心でもあり、それぞれの地方のもつ風土や文化的な背景をもっています。例えば、静岡大学の**工学部・情報学部**が浜松にあり、それ以外の学部が静岡にあることについて、静岡県民は当たり前すぎて全然気になりませんが、他県の人からは「えっ?何ぞ?」と思われるし、そこにはそれなりの背景があります。

まあ、地方の国公立大学と首都圏の私立大学とどっちがいいのか、と言われると、考えてしまうかもしれません。ですが、単に場所や名前だけでなく、**どんな背景をもった大学なのか**、というところまで調べてみると、何かしらの発見があります。もしかしたら自分にフィットする大学・学問に出会えるかもしれません。**授業料と生活費が安い**だけではありません。**就職先だって心配することはないですよ**。なかなか国公立大は宣伝費がなくて、いい大学なのにアピール不足なのが歯がゆかったりします。

これからいくつかの地方国立大学の特徴的な学部を中心に紹介してみます。当然ながらすべての大学を紹介することは不可能ですし、これらの大学を特におすすめしているわけではありません。偏差値のランキングや、知名度だけでなく、大学の歴史や立地している地域、学部の特徴といった視点から大学について調べてみるのはどうですか?というご提案です。なお、ここで紹介している内容は、各大学のホームページ等を参考にして作成していますが、全て正しい情報であるとは思わないでください。みなさんも独自の調査で面白そうな大学・学部を発見してみませんか?面白い大学を見つけたら、進路課まで教えて欲しいと思います。

### 秋田大学の今はなき「**鉱山学部**」と現在の「**国際資源学部**」「**理工学部**」

秋田県は豊富な地下鉱物資源に恵まれているところです。かつては銀山もあり、実は今でも石油が採掘されているところです。そんな土地柄から、鉱業の技術者の養成を目的として、1910年(M43)に国立の「**秋田鉱山専門学校**」が設立されました。軍艦島などで知られる通り、戦前の日本は鉱業が盛んで、鉱山専門学校は、学校としての格もかなり高かったようです。戦後、単科の「**鉱山大学**」を目指していたものの、1949年(S24)、新制の秋田大学「**鉱山学部**」として再スタートしました。その後、高度成長期になると、鉱山学部の中では工学的分野が拡大していきます。

さて、時代が下り1970年代になると、海外からの輸入・経営の合理化がすすんでいき、1994年には秋田県内の全鉱山が閉山または採掘中止となります。鉱山学部もその役割を終え…となりそうなものですが、ここからが面白い。

近年、家電製品や携帯電話、パソコンなどから貴金属やレアメタルなどを取り出すことが注目されているのは知っていますか?そう「**都市鉱山**」という考え方です。鉱産資源に乏しい日本では重要なテーマです。一方、鉱山で資源を得る過程において、不純物を選り分ける技術はなくてはならないものでした。そのような不純物を取り除く研究は、明治時代からずっと「**鉱山学部**」で行われてきています。ということは、家電などから不要物を取り除き、資源を取り出すという「**都市鉱山**」で求められている技術は、実は鉱山学部にとって最も得意とする分野であったりするのです。

また、家電製品などをリサイクル・処理するうえで問題になるのが、汚染物質の発生です。これも鉱山開発研究との親和性が高いテーマです。栃木県の足尾銅山の鉱毒事件を訴えた田中正造についてはみなさんご存じですね。この事件からわかるように、鉱山開発は汚染物質との闘いの歴史でもあるわけです。また、秋田の鉱山跡に関しては、東日本震災の際、福島原発事故によって飛散した放射性セシウムを含む焼却灰が首都圏から運ばれ埋め立てられたという話もあります。この件については、大学とは直接関係ないですし、住民の反対もあるので一概に良い話と言えるものではないですが、汚染物質の無害化や封じ込めの研究が、鉱山学と無縁ではないことがわかりますね。鉱山に関する研究は古くて新しいテーマを持っているのです。

さて、秋田で鉱山が閉山になっていく中、鉱山学部は1998年に「**工学資源学部**」となり、2014年には「**国際資源学部**」と「**理工学部**」に分離しました。学部名に「**国際**」とつくのは、現代の資源問題は世界情勢と切り離して考えられないことを反映していますね。学部名から「**鉱山**」が消えてしまったことは少々残念ですが、ここまでの経緯を知っていると、「**国際資源学部**」が何を学ぶ学部であるかのイメージができるのではないのでしょうか。

## 信州大学、日本唯一の「繊維学部」

長野県は古くから養蚕・製糸が盛んな土地でした。長野県の誘致をうけて、1920年(M43)長野県上田市に「官営上田蚕糸専門学校」が設立されます。ここに設けられたのが、養蚕科と製糸科です。養蚕は生物・農学の分野、製糸は工学の分野にあたりますね。その後、上田蚕糸専門学校は、繊維科学技術全般にわたる高等教育機関に発展していきました。戦前・戦後にかけて、単科大学を目指してはいましたが、結果的に1949年新制の信州大学の繊維学部となります。ちなみに、いくつかの学校が統合してきた信州大学は、今でも教育学部・工学部は長野市、人文学部・経済学部・理学部・医学部は松本市、農学部は南箕輪村、そして、繊維学部が上田市にあるという、静岡大学もびっくりなタコ足大学になっています。

さて、高度成長期をすぎると、やはり繊維産業が斜陽化していく中で、各地の繊維関係の大学・学部・学科が繊維の看板を下ろしていきます。1962年には、東京農工大学(ここもまた面白い大学です)の繊維学部は工学部に名称変更、最近では京都工芸繊維大学(ここも面白い!)の繊維学部も2005年に学部統合で名称が消えました。そんな中、一時期「第二工学部」と名称変更されるかも、という危機を乗り越え、信州大学は日本唯一の「繊維学部」の看板を残しています。

では、現在の繊維学部はどうなっているのでしょうか?まず、養蚕系の流れでは、戦前から蚕や桑に関わる品種、遺伝、育種、栽培、病理、微生物、の研究の蓄積があり、現在では応用生物、生物機能、生物資源、環境科学の分野に発展しています。一方、製糸科の流れは、先進繊維工学、機械ロボット、そして感性工学という分野に広がってきました。感性工学と言われるとよくわかりませんが、例えば「光ファイバー(そもそもファイバーは繊維ですね)」の研究を行っている研究室などがあります。また、昭和初期からはじまる人造繊維の研究から、応用化学の分野の研究も得意としています。普段身につけているナイロン・ポリエステル(エアリズムやヒートテックの素材)といった素材はこういう研究から生まれていますね。このように、研究テーマは多岐にわたり、1つの学部で工学と農学の学位を授与しています。また地元企業をはじめとした産学連携の蓄積があることで、就職先もなかなかいい、というのが繊維学部の魅力だったりします。キャンパスのある上田市は、静岡県民にとってはあまり馴染みがないかもしれませんが、新幹線を使えば東京から1時間30分、東京~浜松間より安くて早いというのは魅力です。

## 滋賀大学の歴史と伝統のある「経済学部」と日本初の「データサイエンス学部」

滋賀大学経済学部の前身は、1923年に開学した彦根高等商業学校になります。もともと滋賀県には近江商人の伝統があり、全国で9番目の高等商業学校となりました。高等商業学校(旧高商)とは、1880年代から1920年代にかけて商業実務家を養成するために各地に設置されたもので、日本経済の近代化を支えた学校だと言えます。官立の高商は13校あり(本当はさらに、台北・京城(ソウル)・大連にもあった)、どれも現在は経済学部・経営学部の名門として知られています、以下に旧高商13大学のリストを挙げてみます。これらの大学は、経済・経営系の名門大学と言ってよいでしょう。

	学校名	設置年	現在の大学 (◎は三高商→旧三商大として超名門)
1	東京商業学校	1885(明治18)年	東京商科大学→◎一橋大学
2	神戸高等商業学校	1902(明治35)年	神戸商業大学→神戸経済大学→◎神戸大学
3	山口高等商業学校	1905(明治38)年	山口大学
4	長崎高等商業学校	1905(明治38)年	長崎大学
5	小樽高等商業学校	1909(明治42)年	小樽商科大学
6	名古屋高等商業学校	1920(大正9)年	名古屋大学
7	福島高等商業学校	1921(大正10)年	福島大学
8	大分高等商業学校	1921(大正10)年	大分大学
9	彦根高等商業学校	1922(大正11)年	滋賀大学
10	和歌山高等商業学校	1922(大正11)年	和歌山大学
11	横浜高等商業学校	1923(大正12)年	横浜国立大学
12	高松高等商業学校	1923(大正12)年	香川大学
13	高岡高等商業学校	1924(大正13)年	富山大学

※ほかに公立の高等商業学校由来の大学として、◎大阪公立大学 横浜市立大学 兵庫県立大学がある。

どこも「偏差値」「知名度」では測れない歴史・伝統のある「経済学部」「経営学部」

さて、滋賀大学経済学部の特徴は、歴史があるだけでなく、国公立大学としては最大級(定員410名)の巨大経済学部であるということです。もちろん、よし悪しはありますが、人数が多い分、教員・講座の幅が広く、自分に合った学びができます。また、経済学部から派生した(と言っていかどうかわかりませんが)、データサイエンス学部は、日本初の統計学・ビッグデータ研究の学部として2017年に開設されました。最近話題のAIなども、基本的にはビッグデータの処理が土台になっています。AIなどについて学びたいのであれば、データサイエンス学部もおすすめです。

なお、経済学部・データサイエンス学部とも、「数学さえできれば」文系・理系どちらからでも受験できる入試科目が設定されているため、文転・理転(!?)も可能だということも興味深いところですね。